

MCS (マオイスト軍キャンプ) への初展開

「今、どこを走ってる？」

「川みたいな所を渡ったよね」

「どこに向かっている？」

暗闇の中を2両の国連車両でMCS 2 (マオイスト軍の第2メイン・キャンプ) に向かっている。ネパール入国後、UNMINにおける導入教育を終え、私にとってMCSへの初展開となるこの日、朝から忙しかった。

ネパール南部を東西に延びるタライ平野を走るマヒンドラ・ハイウェイ (ハイウェイと言っても普通の片道1車線道路であるが) から北の山地の方に向かって進路を変え、山を1つ2つ越えると、川に行き当たる。この川を車で渡渉し、田んぼや畑の中を走る農道のような砂利道を1時間ぐらい行くとようやく目指すMCS 2がある。この辺りの村落には電気の供給などはない。当然、街灯などない。チーム・リーダーの道案内の下、真っ暗闇の中を新参モニターは走っていた。1000に出発したので、夜の2200頃、ようやくMCS 2に到着した。今晚は、もう寝るだけだ。

MCSライフ

暑い、猛烈に暑い。腕時計の温度計だが、40度に達する。外にいるだけで汗が噴き出してくる。ただし、湿気は感じないので不快感はない。

我々、日本の2次要員が幸運なのは、居住コンテナが設置されエアコンが完備している点だ。1次要員の頃はコンテナではなくテント暮らしだったと聞いている。途中からコンテナが入ったようである。テント暮らしはさぞ辛かったろうと、実際にMCSに来てみると実感できるのである。

MCSでは、武器収納コンテナのモニタリングと周辺へのパトロールが仕事である。武器収納コンテナのモニタリングは定点設置カメラがあるので、コンテナの前に座ってコンテナを見つめているわけではない。MCSのUN地域内においても退屈なので、私にとっては周辺へのパトロールが楽しみだ。周辺と言っても、遠い所で3時間近くかかる所もある。というのは、MCSの周りにはMCSに駐屯するマオイスト軍の隷下部隊のサテライト・キャンプがあるためだ。ここには、通常、最低1回は訪問している。帰る途中には、町や村があるので、寄り道して買い出しをする。これもれっきとしたパトロールであり、UNのプレゼンスをさりげなく示す。水やジュース、果物、肉など買い物は日本でもどこでも楽しいものだ。さあ、今日も地元経済に貢献するぞ。ただし、水やジュースは大抵、賞味期限が切れている。それでも、そういう代物しかこの辺にはないから買うしかない。賞味期限は相当バッファをとっているはず、と自分に言い聞かせつつ。

食事の準備は、MCSによって事情が異なるようだ。私は2つのMCSで勤務しているが、現地の賄い婦がすべて作ってくれる所もあれば、自分たちで準備する所もある。自分たちで準備するのが楽しいかどうかはチームのメンバー次第。というのは、私は日本風の食事を準備したが、誰も食べてくれない。やっぱり、日本風の食べ物は少し奇妙に映るみたい。本当に誰も食べずに全部私一人で食べました。「こいつら... * !」それとも、私の料理の腕がダメ？

朝は、だいたい6時に起床。特に決まっているわけではない。MCS2のマオイスト軍は、5時半頃から軍事訓練(いわゆる武装走)を行っている。私が、現地入りして感じたことは、予想に反してよく訓練されている「軍隊」だということだ。単なる武装組織とはやや異なる。

7時頃、皆で朝食をとる。遠くにパトロールに出るときは6時頃出発したりもするが、通常、8時出発。自分がドライバーに当たっているときは運行前点検を実施する。ファンベルトにたるみはないか？エンジンオイルは大丈夫か？燃料は満タンか？よし、OK。出発だ。

UNMINで使っている車はインド製が2種類、日本製が2種類。日本製の車はダントツ人気が高い。特に世界のTOYOTAが誇る某車は誰もが大好き。確かに、加速、サスペンションなどスバラシイ。でも、私はインド製の某車が好き。小回りが利き、トランスミッションのつながりが良い。コントロールしやすいのだ。

目指す目的地に着いたら、「ナマスカール(ナマステよりも丁寧な挨拶)」で懇談開始。もちろん、合掌付きだ。いつも聞くことは、「What's the general situation around here?」。いつも帰ってくる答えは「calm and quiet」「normal」。私が勤務した地域では、特に何も起こらなかった。これで、「そう、じゃあ、さようなら。」ではパトロールの意味がないので、雑談したり、時には政治情勢を話したり。通訳が優秀なので、大助かり。通訳するだけでなく、先方とのアポ取りや初めて訪問する場合のマネジメント、バンダ(道路封鎖)に遭遇した時には通過させるよう交渉したり。特に、私のつたない英語を(その言わんとするところを洗練し)ちゃんとしたネパール語会話に翻訳してくれる。ありがとう。

カトマンズライフ

カトマンズでは、日本隊隊長と同じ家を借りて住んでいる。1次隊が借りていた家をそのまま申し受けたものだ。内部の作りはともかく、日本の一般的な一戸建てに比べて外観や庭の豪華なこと。

MCSでの勤務を終えると、カトマンズに帰るわけだが、カトマンズは良い。日本食レストランあり、洋食レストランあり、中華レストランあり、スーパー

マーケットあり。何でもある。他のセクターに配置された日本人アームズ・モニターが最近、電話で私に言ったものだ。「変わろうよ」だから、最初の選択が重要なんですよ、最初の選択が。今、この原稿はMCSで書いているが、カトマンズに帰ったら、何食べよっかなあ。

ネパール国軍はこんな所にも

皆さん、軍隊はどんな所に所在するかイメージがありますか？防衛するために都合の良い場所、そう緊要地形と言われる所に駐屯する。我々軍事監視要員はマオイスト軍だけでなくネパール国軍も訪問するが、軍隊は緊要地形を好むということが良く分かる。というのは、地方の山間部に所在するネパール国軍は、本当にいかにも緊要地形らしい山の頂上にドカンと駐屯している。隘路らしき所のいかにも隘路を制しそうな場所にもキャンプがある。

「水とか食べ物とか、どうしてるの？」(私)

「うん、運んでるよ」(ネパール国軍将校)

そりゃ、そうだよ。でも、まあ、あまりに大変そう。

ありがとう、ネパール国軍

ネパールの道路がどんなのか？皆さん、想像できますか？こちらで走ってみると、日本の道路は本当にきれいで快適だということが良く分かる。舗装がはがれてガタガタなのはもちろん、一見きれいに見えても、道路の表面が平らではない。波打っているのだ。車には良くないな、と思っていたら、案の定。

モバイル・チームに参加して、ポカラへ行った帰りのこと。ポカラを出発して約50kmの地点である。突然、「パァーン」と音がして、私の運転する国連車両が左に傾いた。同乗する助手席の同僚があわててサイドブレーキをひき、私がフットブレーキを踏みこみ、車両は停止。何事か、と車両から降りてみると、車体が傾いて左前車輪と接触しているではないか。パンクはしていない。通りかかって目撃していた現地の住民が、指さして何やら言っている。行ってみると、金属の棒が転がっておりどうやら折れて飛び散った残片らしい。さては、車両のサスペンションの部分の棒が折れたか。車両を点検してみると、やっぱりサスペンションの部分に問題があると思えない。しかし、車両はまだ2万キロも走っていない。そんな新しい車両の金属の棒が折れるとは...

前方を走るチーム・リーダーの車両が我々の異変に気づき、戻って来たが、運悪くここは通信不良の場所。ポカラの西部セクター司令部にも連絡が付かない。我々と行動を共にしていたモバイル・チーム員のネパール国軍少佐がここから数km行った所に町があるだろうから、その車両整備工場に頼んでレッカーしてもらおう、と提案。チーム・リーダーが承知し、前進したが、途中で

ネパール国軍の小さな駐屯地を発見。どうやら中隊が駐屯していたようだ。ここに頼んでトラックと兵士数人が応援に駆けつけてくれた。その中の最古参らしきベテラン軍曹がアイデアを出し、ハンマーの先の金属を外して車体の下にかませて沈み込んだ車体を浮かそう、それで駐屯地までは走れるはずだ、ということに。このアイデアは的を射ており、見事に走れる状態に。やっぱり、ベテラン下士官は頼りになるなあ、と実感。ネパール国軍のトラック先導で数kmを徐行運転し、駐屯地に運び入れ、ポカラの西部セクター司令部に連絡をとって一件落着。

ありがとう、ネパール国軍。

ビー・パンクチュアル！（時間厳守！）

このミッションに参加して今日まで、物事が時間通りに動いたことはほとんど一度もない。会議は定刻になっても絶対に始まらないし、パトロールの出発時間になっても、出発できない。時間を決めてはいても、何となくその時の雰囲気や時間の流れで時間通りにはいかない。皆さん、軍人なのでパンクチュアルを口にするが、様々な国の人たちが集まるとなかなかそうはいかないみたい。自衛隊ではパンクチュアルどころか定刻の10分、20分ぐらい前には準備完了が普通になっているので、イライラ、イライラ。逆に、これに慣れきってしまっ、日本に帰ってもこの調子がついつい出てしまったりするのが怖い。

レンチョー

「レンチョー？」何だそれ？と思われた方もいるかも知れない。連絡調整事務所、略して連調（レンチョー）である。その名のとおり、本国日本との連絡・調整（ときにUNMINとの所要の連絡・調整）を実施する機関。我々軍事監視要員とは別個に設けられている。ちなみに他国にはこのような制度はないようだ。他国の要員には奇異に感じる人もいるかも知れないが、私は素晴らしい制度だと思っている。この連絡調整事務所があるおかげで我々軍事監視要員は本来の任務に集中することができる。個人派遣なのに、という意見はあるだろう。しかし、だからこそ必要なのである、こういう制度が。物理的支援が重要なのではない。この連絡調整事務所が存在することそのものがもたらす精神的プラス効果が重要なのだ。

ダンニャバード（ありがとう）

私にとって、このUNMINは初の国際活動参加となる。その昔、イラク派遣要員ではあったが、ミッションそのものが終了となり派遣直前で解散。自衛隊で毎年書く経歴管理調査では、国際活動参加熱望、と記載し続け、昨年末に

突然連絡が。「ネパール行く？」

実際に参加してみて分かること、実感できることがたくさんある。まだ、自分の中で整理・消化できていないかも知れないが、私たちの国がこれから以前にも増して人的国際貢献を目指す中、我々個人派遣の要員が持ち帰る知識や経験が、今後の日本の国際貢献に少しでも役に立つのであれば、本当にうれしく思う。貴重な経験をさせていただき本当に感謝している。

感謝の気持ちは現地語で。「ダンニャバード」。

6月某日MCS4にて

日下1尉